

Catch
the
WAVE14期生4名、コロナに
負けず頑張っています!

14期生(4月入校)は4名が在籍しています。コロナ禍の影響で、時間短縮や休校を繰り返す変則的な事態となりましたが、現在ではそれらの遅れを取り戻すべく実技、専門(ユニットプログラム)、教養と全員元気に学んでいます。

素敵な布

村上 里桜

幼い頃、1枚の布から着物を作る祖母の後ろ姿を見て、それが魔法のように感じていました。祖母のようになりたいと、次第に布自体にも興味を持つようになりました。「どうしたら、こんな素敵な布が作れるのか」、TVで機織りの存在を知りました。それからはネットで学校を調べて入学を決意しました。初めてのことで、楽しい反面、難しいことも沢山あります。ですが、「素敵な布を作る」という夢の実現のために、知識と技術を身につけていきたいです。

日々勉強、日々努力

間 明日香

以前少し学んでいた工芸分野を本格的に学びたいと思い入学しました。始まったばかりですが覚えることが多く、何より体力が必要。どちらも不得意な私は苦勞することも多いですが、織りすすめていくと「だんだんと生地になり、柄が出てくる」のを見ると、もっと綺麗に織りたいと意欲が湧いてきます。将来は博多織などの伝統工芸を残していけるような活動に携わりたいと考えています。目標に向けて学んでいきたいです。

online START!

オンライン授業の取り組みスタート

博多織DCでは、福岡在住でない講師の方々にも授業を担当していただいているので、臨機応変にリモート授業も取り入れています。早速、14期生の最初のユニット授業「自己探究」(藤代裕之先生/法政大学准教授・ジャーナリスト)で、zoomによるオンライン授業が行われました。

この授業では、表現者として、ストーリーを描く「自分(オリジナリティ)を見出す」ため、その根源である「自分」を獲得していくことを目指したもので、講義と相互インタビューが授業の中心でした。結果、



抱負

田中 彩香

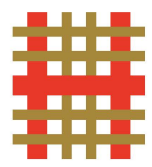
博多織DCへ入学してから現在まで、博多織の基礎中の基礎を学んでいますが吸収する物事の連続でとても充実した日々を過ごしています。幼い頃から、一つの作品にひたむきに向き合い一切の妥協を許さず向上の心を忘れない、そんなカッコいい職人に憧れを持ち続けてきました。これから博多織を学んでいく中で、自分なりの「かっこよさ」を追求し、作品や精神を鍛えていけると考えています。

技術の習得をがんばりたい

外池 華那

高校や専門学校でデザインを学んできました。博多織DCに入る前は、織る事がほとんどだと思っていましたが、博多織の歴史やデザインの授業など、織の授業以外にも色々あり、新鮮です。博多織の素材である絹糸には入学して初めて触りました。こんなに細い糸が、しっかりとした帯になることに驚いています。将来、博多織にどう携わっていくかはまだ決めずに、まずは技術を習得することを目標として頑張っていきたいです。

すべてがオンライン授業となっても成立したのですが、次のユニット授業は「ものづくり」(梅澤陽明先生/一般社団法人デジタルファブ리케이션協会代表理事 ファブラボ神田錦町チーフディレクター)。手を動かす授業なだけに、全てがオンラインとはいかない状況ですが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、学生の学びが深まるよう進めていきます。(アシスタント・ディレクター 長谷川夕美子)



博多織 DC

本誌の内容に関してのご意見、ご感想等はこちらまで!

情報誌 おりおり便 発行日/2020年8月25日
編集・発行/博特定非営利活動法人 博多織DC
〒812-0014 福岡市博多区比恵町20番19号
TEL.092-472-5102 FAX.092-472-5103
http://www.hakataoridc.or.jp

博多織の未来を見守る賛助会員募集中 詳しくはホームページをご覧ください。



コトコト織ってコツコツ学んでドンドン伝える

おりおり便

vol.19

2020 Summer
博多織 DCネット販売サイト
「心機庵」を開設します

博多織DCにて販売用のホームページの作成を始めました。第5期生である尾畑圭祐君の運営する「日々堂」を中心に、第3期生荒木希代さん、西智子さん、第9期生深堀由美子さんが立ち上げメンバーとして、着物のイメージ撮影など製作活動をしました。まずは、学校が所有する在庫を展開し、順次拡大していきたいと思っています。今秋の開設に向け取り組んでいます。今回なぜECサイトを立ち上げようとしたかと言いますと、博多織DCも、新型コロナウイルスの蔓延によって授業を休止したり、オンライン授業を一部導入するなどの大きな影響を受けました。博多織業界も販売機会を奪われる状況となってしまいました。このコ

ナによって世の中はガラッと変わったと考えています。また学校にとってはコロナの有無に関わらず販売チャネルを確立することは課題でありました。今回のコロナによって多くの人がネット(オンライン)での消費に大転換をはかり、学校にとってもこれは大きなチャンスではないかと考えました。

目的は売上を上げることによって自主財源を創出したいことはもちろんなのですが、その前に学生や卒業生が作る品々に対して消費者がどのように評価していただけるのかマーケティング力の向上につなげていくことが一番と考えています。マーケティング力を上げることによって、商品の企画力は高まり学校のかかせる「自立と創造」の実現に一歩近づくのではないかと思います。博多織DCにとって意義あるサイトの開設を目指したいと思います。ご支援いただいている皆様、ご関係者の皆様、卒業生、在校生の皆様、ご協力のほどよろしくお願い致します。

理事長 庄嶋 健



サイト概要

SHINKIAN
心機庵

サイト名 SHINKIAN 心機庵
ターゲット 着物愛好家 ※1
出品物 学校の製作品 ※2
オープン 今秋予定

※1 開設当初は初心者ではなく、着物がわかる方を対象にします
※2 今後、卒業生の作品(箱物、小物等)を手掛けたと思います

今後の予定 博多織求評会「博多織DC新作発表会」

日 時: 令和2年11月11日(水)~15日(日)
10時~17時(最終日は、15時)
趣 旨: 13期生、14期生の修学の成果発表
場 所: 寶聚庵(福岡市博多区博多駅前1丁目7、承天寺別院)

・WANTED・

博多織DC 14期生募集中

詳しくは、メール又はお電話でお問い合わせください。
TEL:092-472-5102 FAX:092-472-5103
Email:hakataori@forest.ocn.ne.jp (担当:野口)

“奇跡”の卒展

「HAKAORI 2020」を開催しました

2020年3月24日(火)から29日(日)、12期生の卒業展示会「HAKAORI 2020」を福岡市美術館ギャラリーにおいて開催いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2/27～3/20、4/4～5/18の期間の休館のその狭間をぬっての奇跡的な開催となりました。学生たちの作品とメッセージをご紹介します。



2020
03.24 tue - 29 sun
in 福岡市美術館



「身近な自然」と「自然に出来たもの」

井上結香子

私は、自然に触れることで心が満たされます。日々の生活や旅の中で出会った心地よい瞬間や感覚を作品にしたいと思い制作しました。

都心や、家にいながらも自然とのつながりをゆるやかに感じられ、日常で身につけたいくなるもの。またインテリアとして目に入る場所に置いておきたいくなるようなテキスタイルを目指しました。

展示会では、大濠公園の散歩がてら来られる方や観光客の方など博多織を初めて知ったという方にも見ていただけました。だからこそ、展示方法に加え織物用語の説明や外国人観光客向けの英語表記をつけるなど、もっと気を使うべきだったと思う点も多く見つけました。

研究生として学校に所属し、着尺を中心に制作し、帯の図案の勉強にも力を入れていきたいと思っています。



Eternal 8

西田由紀

何気ない日常で遊びを生み出しワクワクして過ごしていた子ども時代。創造力、探究心に加え柔軟な考え方で自然とネガティブをポジティブに変える力を備えている8歳。永遠の8歳として、毎日を楽しんでほしいという願いを四角□と丸○の世界で表現。帯の柄と同じ階段状の立体物、新聞紙の着物など、見る方がいろんな角度で楽しめる展示を考えました。お客様に思いを伝えるには、まずは自分が楽しみ、自分の作品に自信を持つことが大切だと改めて気づきました。

わたしは現在派遣看護師として働きながら、独学で染織の勉強をしています。今後、博多織を健康という観点からアプローチしたり、誰でも簡単に着物が着れたり、万が一のときのAEDも速やかに装着できたり、将来そのような着物の開発に携われたらと思っています。



FLAT HOUSE

井上七緒

最近の若者は、浴衣や振袖を着るくらいで、着物を日常的に着ることが少ない。そこで、私と同世代の人にもっと着物を日常的にきて欲しい、もっと日本の伝統工芸に興味を持ってもらいたいと思いました。

フラットハウスとは、もともと米軍関係者のために建設されたアメリカの雰囲気を持った平屋のことです。卒展の空間にすることで、着物をいつもと違った雰囲気を楽しみ、親しみを感じてもらえたのでこのテーマにしました。

ブースには着尺や帯のはぎれで作った小物も置いていました。お客さんから「かわいい」と言ってもらえたのも嬉しかったです。森博多織メーカーに就職しましたが、学校で学んだことを活かしつつ、一から勉強していこうと思います。



LONDON×HAKATAORI

城戸 那菜子

日本人は洋服の流行に敏感です。一方ロンドンのファッションは、「自分らしさ」を大切にしています。和服は着る人が違えばアイテムを変えて、「その人らしく」着こなすことができます。そんな「自分らしさ」という共通ワードを見つけ、ロンドンのファッションの要素をミックスさせたコーディネートを考えました。

実際に展示では、ブースが入ってすぐの所にあり、目を引く展示が出来たと思います。コーディネートを見てもらうと「かわいい」という声を頂けました。先生方からも、「やりたい事がよく伝わる」と言っていました。

学校の研究生として引き続き在籍し、着物のセレクトショップでアルバイトをしながら和装文化を広める活動をしています！



“異世界への扉。現実との浮遊”

加茂 万里江

福岡市美術館の大きくて綺麗な空間で展示をする機会など今後ないと思い、好きなものを集めた空間にしました。

せっかくなので、通常の展示方法にとらわれず、2年間のユニット授業で学んだことや、自分自身気づいていなかった好みなども取り入れたいと思ったテーマです。

黒を軸とした展示空間ですので、用いる色は着物や帯の作品の色だけにし、できる限り暗い空間づくりを心がけました。予算がある中で、どこに重さを置くか。「自分で作成できそうなものは作る！」と意気込んで始めたのはいいものの…ダンボールで階段を作るのは大変でした。実物大の物を組み立てると接着が必要のため、止むを得ず搬入当日にぶつけ本番でした。ちゃんと自立するのか、上に作品を乗せて強度はあるのか…など不安はありましたが、沢山の方に見ただけで、本当に良かったです。

